

よみがえれ!  
有明訴訟弁護団  
(後藤富和)発行  
092-512-1636  
090-9602-0700

# 農水省試算 開門対策費 大幅削減

【朝日・10月29日】国営諫早湾干拓事業(長崎県)潮受け堤防排水門の開門を巡り、農林水産省は28日、常時開門を前提に630億円と試算した費用について、速い潮流を生じさせない短期開門調査と同じような方法を採用すれば、423億円程度を見込む海底補強対策費を大幅に削減できるとの考えを示した。

東京都千代田区の衆議院第一議員会館で同日、農水省の担当者が大串博志衆議院議員らのヒアリングに応じた。

同省は2003年12月、排水門を常時開門した場合に必要な対策費用を630億円と試算。主な内訳は(1)堤防内に海水が流れ込んだ際にえぐられる海底を補強する洗掘(せんくつ)対策に423億円程度(2)後背地の排水対策費に200億円程度――などとしていた。対策費用について、農水省農地資源課の横井績調査官は03年当時の試算に基づき、短期開門調査と同じような速い流れを生じない開門方法を探るのであれば、「洗掘対策については不要と整理している」との考えを明示した。

開門訴訟の原告弁護団側は「我々はこれまで、費用のかからない段階的な開門方法を再三提言してきた。既に事業には巨額の予算が投じら

ており、開門には安価な方法をとるべきだ」としている。

また、この日のヒアリングでは、630億円の対策費には調整池に代わる農業用水の代替水源のための費用が含まれていないことも確認。同省は03年当時、調整池で使う水量を年間330万トンと見込んでいたことを理由に、周辺の代替水源の確保自体が難しいと主張してきた。

しかし、この日、実際の使用水量は08年度23万3700トン、09年度41万8200万トンと、計画の1割前後しか使用されていないと、大串氏が指摘。農水省側は、数値の見直しについて「検討していく」とした。

## タイラギ漁 太良沖は絶望的

【NBCラジオ・10月27日】佐賀県沖の有明海で昨シーズン13年ぶりの豊漁となった二枚貝のタイラギですが、今シーズンは主力漁場の鹿島市や太良町沖でほぼ全滅している、佐賀県側での漁が絶望的な状態となったことがわかりました。(略) 佐賀県有明水産振興セン

## タイラギ漁躊躇

【西日本・11月12日】タイラギ漁業者が数多く住む太良町大浦地区。大鋸武吉さん(62)はタイラギ漁に出るかどうか「二の足を踏んどる」とつぶやく。漁には潜水士、補助員、船頭と最低3人は必要となる。二人の息子は「漁業じゃ食っていけない」と海上自衛隊に入隊した。妻の美代子さん(62)と出漁するにしても、船頭を雇う必要がある。「漁に出ても採算が取れん」とどうしようもなからず。大鋸さんは逡巡(しゆんじゆん)する。一方、若手後継者の1人、梅崎卓(すぐる)さん(29)も同様に「出漁の準備を整えた。今年、子どもが生まれたばかり。しかし、手がけた養殖カキは夏の猛暑で8割が死滅した。採算が取れるかどうかは分

## 有明産コハダ 水揚げ減続く

かりません。でも出ないと、収入はありませんから」。若い大黒柱は、決然として視線を海に投げた。

【朝日・11月7日】江戸前ずしのネタの代表格、コハダの一大産地の有明海で、水揚げの減少が続いている。諫早湾干拓の影響を指摘する声もある。(略)特に激しい減り方だったのが99年の前年比3割減。「ギロチン」と呼ばれた97年の諫早湾閉めきりの2年後だった。竹崎港は干拓で造られた潮受け堤防から約10キロ北にある。漁師たちは「湾が堤防で閉めきられた後、漁獲量が減った」と嘆く。コノシロ(コハダ)漁は諫早市小長井町でもおこなわれている。同町の漁師、松永秀則さん(57)は「湾奥部への潮流が遮断され、漁場が変わった」と語る。

### ◆他の魚介類も減

有明海の魚介類の水揚げは他の品目でも減っている。九州農政局の統計では、クツゾコ(シタビラメ)は95年の454トンから06年は190トンに、カニのガザミも95年の331トンから07年には179トンへ減った。(略)

有明海の魚の生態に詳しい長崎大学の田北徹名誉教授は「潮受け堤防内側の諫早湾奥部は、コノシロの一大産卵場だった。取りすぎの影響もあるだろうが、干拓の影響は大きい」と言う。(略)